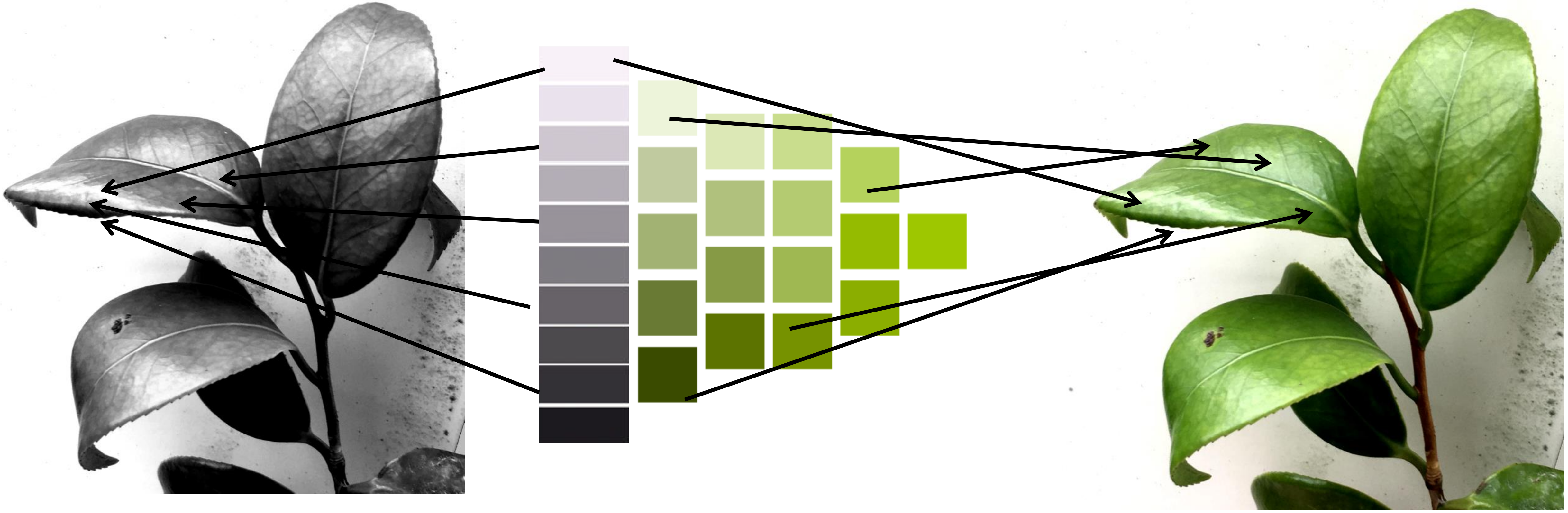
# Greenを混色で作る

## Viridianとの混色で緑色をつくる

明るい緑から暗い緑、
暖色から寒色、強い緑から淡い緑



# 緑色を混色で作り出す方法をマスターしよう

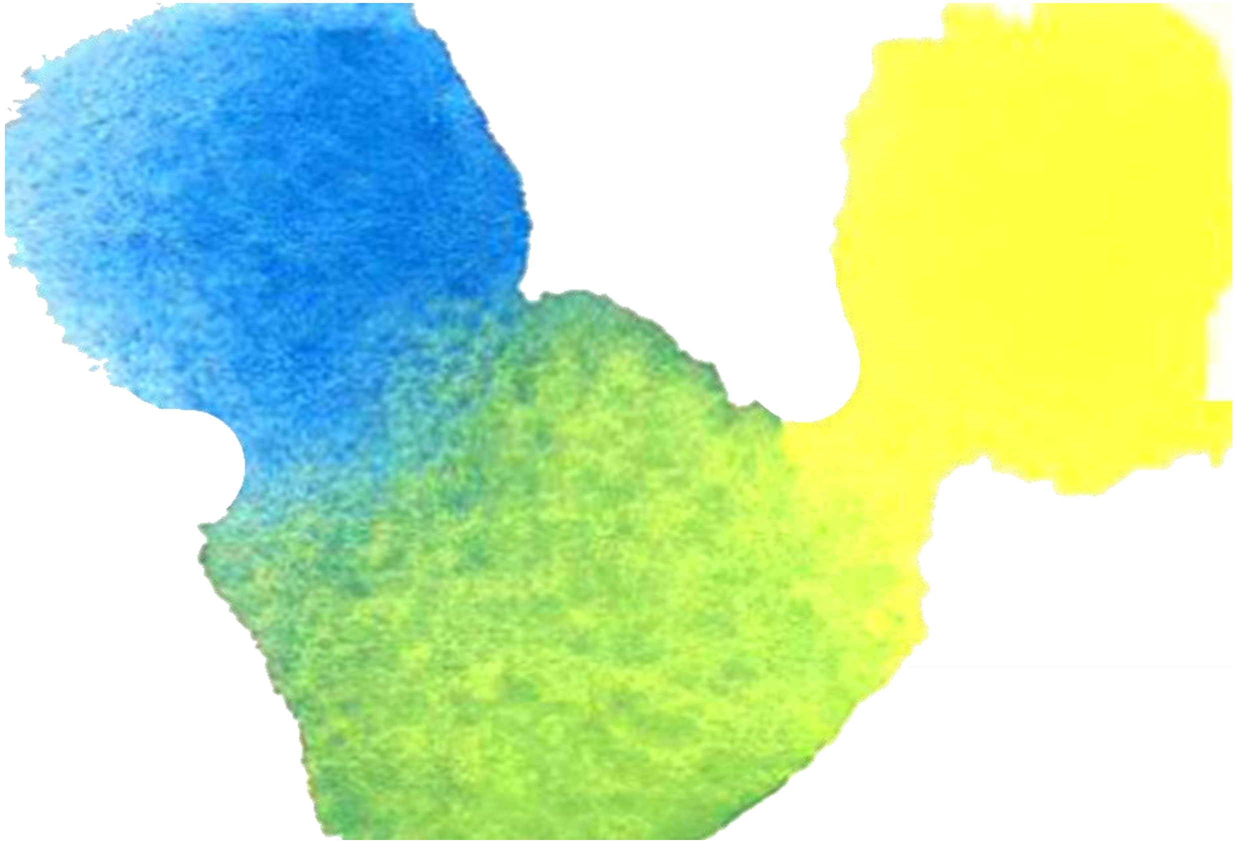
- 太陽光の中にある、自然界の緑は多種多様。
目に映るいろよりもは多くの暖色(黄と赤)を含んでいる。
- 滑らかな葉の表面は空の色を帯びて寒色(青紫)を帯びている。
奥にある緑ほど青みを帯びた淡い色になる。
- サップグリーンだけではカラーバリエーションは制約される。
- チューブの緑色をそのまま使うだけでは、
自然界の瑞々しい高揚感ある緑を表現しにくい。

# ビリジャンヒュー（ホルベイン　W061）

- 青緑色の顔料：この色の持つきらめきと中性的な色には扱う努力する価値がある。緑色つくりにはビリジャンヒューの使い方を押さえておきましょう。
- Viridianの意味：ラテン語で「緑の成長」
- 緑の絵具を いろいろ揃えるより、
  透明感のあるViridianに他の色を混色する方法を覚えた方が緑色の幅が広がる。
- この色を扱うには正しい水分量や混ぜる技術必要。
- ホルベイン透明水彩の緑系17色のうち11色が
  顔料「ビリジャン ヒュー　（PG7）」を含む色。
  透明度の高いViridianに他色を混色することで緑の幅が広がる。

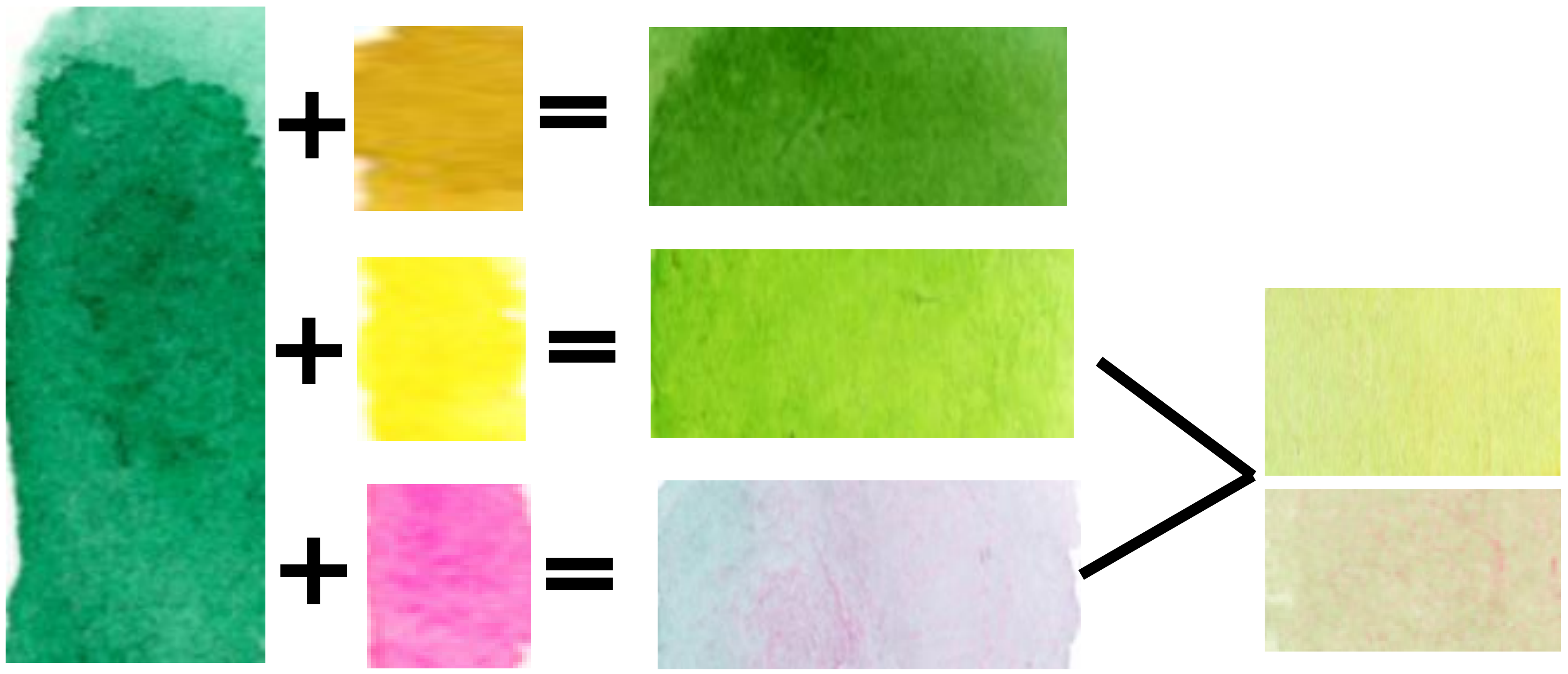
# パレット上での混色の仕方

混合割合と水分量を小刻みにコントロールしやすい



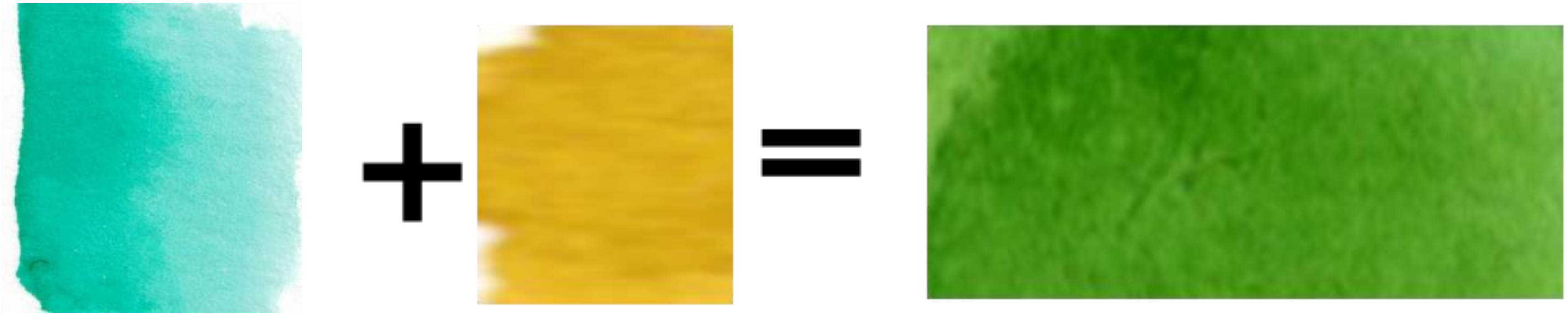
# 定番のグレーカラーレシピ

よく使われる混色：「緑系」＋「黄色や黄土色」で黄緑にする



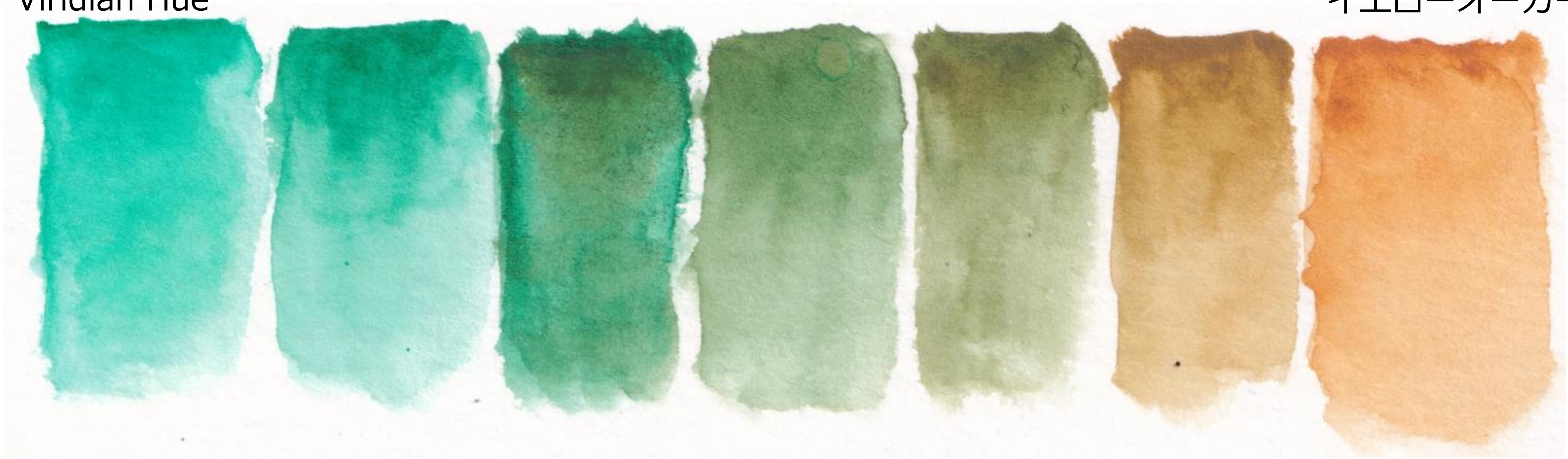
もう一つ、便利なのは、
ピンクとの混色は、いい具合にボタニカルグレーができる。

# 定番のグレーカラーレシピ

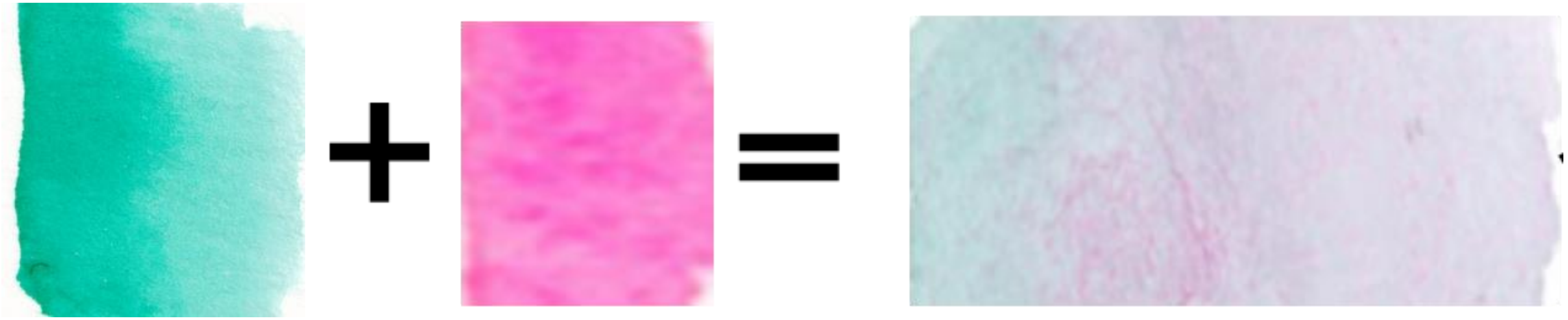


Viridian Hue

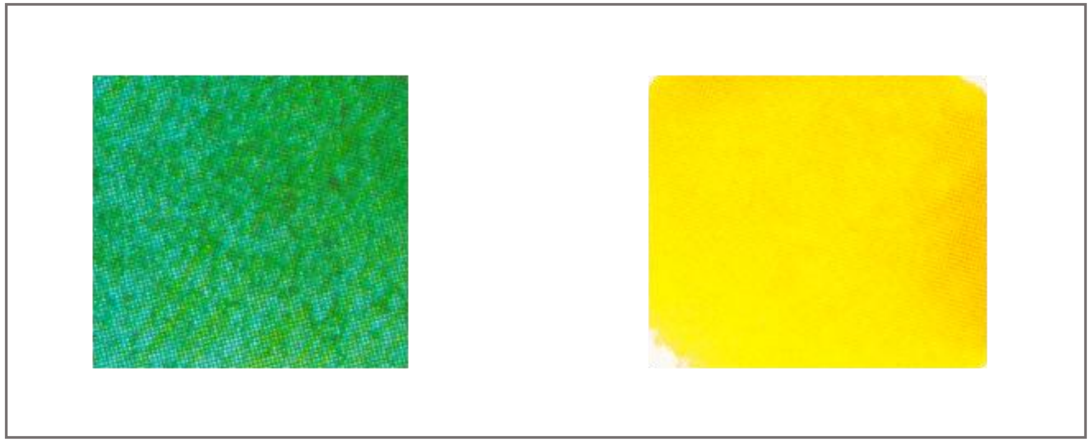
イエローオーカー



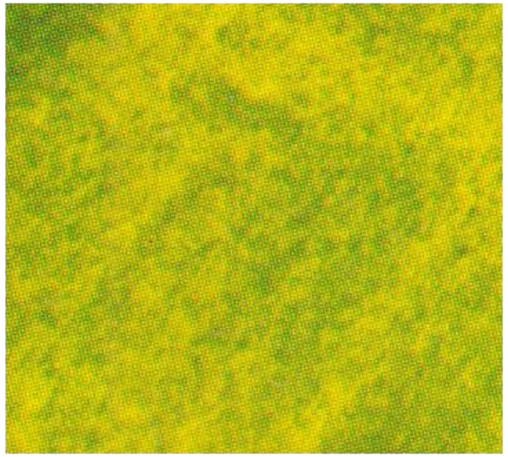
# 定番のグレーカラーレシピ

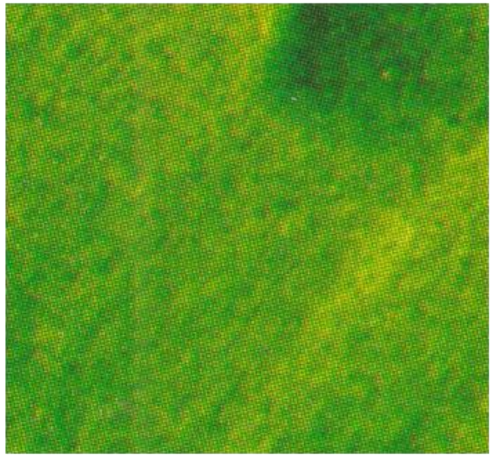


# ① 基本：Viridianで透明なGreenを作る

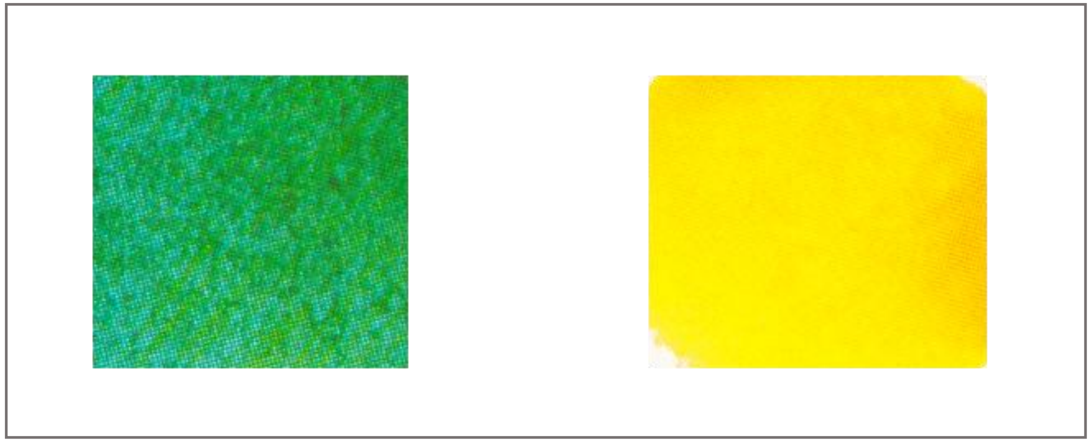


透明度の高い黄色との混色で、
瑞々しい植物、陽光を浴びた
葉の表現に。





# ① 基本：Viridianで透明なGreenを作る

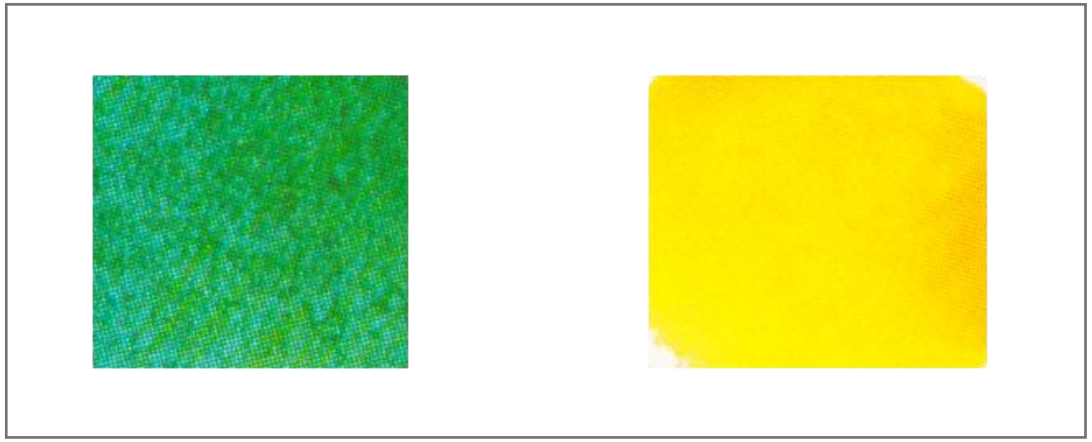


透明度の高い黄色との混色で、瑞々しい植物、陽光を浴びた葉の表現に。

Transparent Yellow、イミダゾンレモン、
イミダゾンイエロー、インディアンイエロー、
イソインドリノンイエロー、
キナクリドンゴールド　など

Viridian Hue　　　　Transparent Yellow

# ① 基本：Viridianで透明なGreenを作る

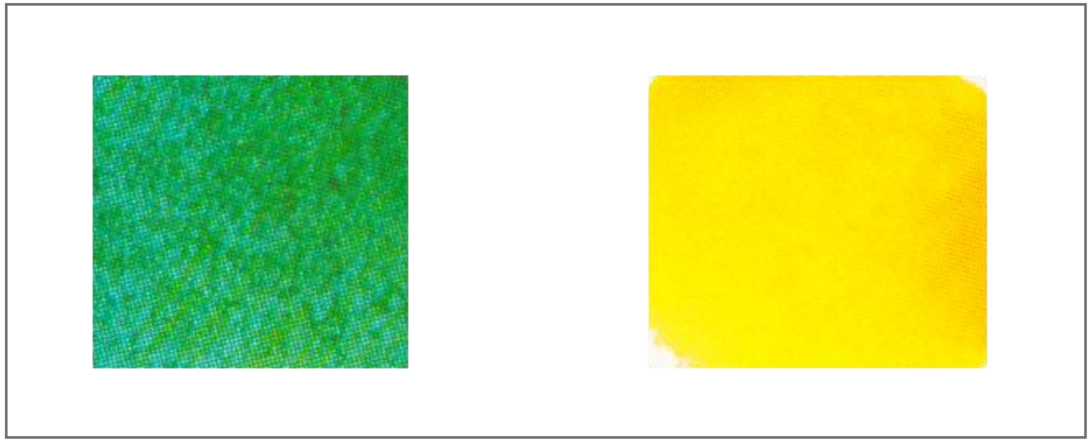


透明度の高い黄色との混色で、瑞々しい植物、陽光を浴びた葉の表現に。

Transparent Yellow、イミダソンレモン、
イミダソンイエロー、インディアンイエロー、
イソインドリノンイエロー、
キナクリドンゴールド　など

Viridian Hue　　　　イミダソンレモン

# ① 基本：Viridianで透明なGreenを作る

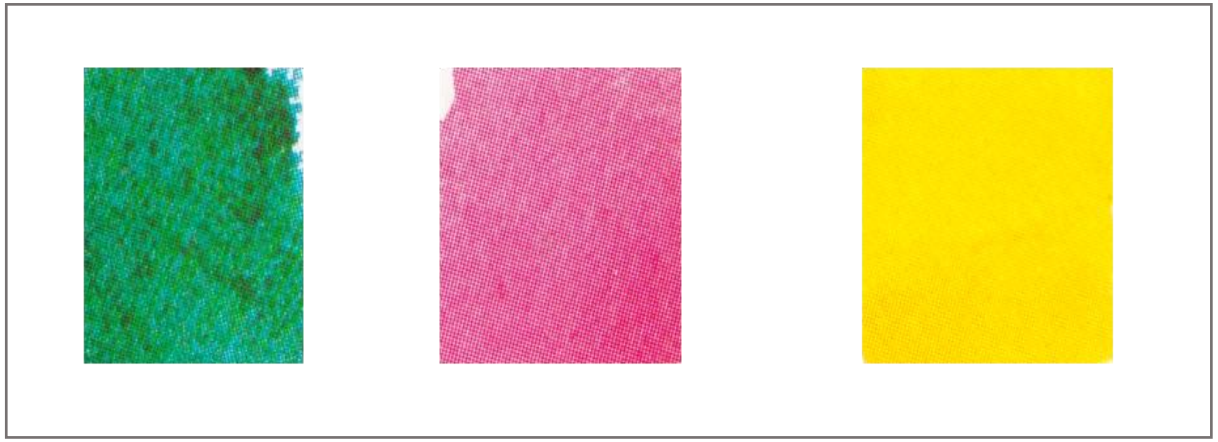


透明度の高い黄色との混色で、瑞々しい植物、陽光を浴びた葉の表現に。

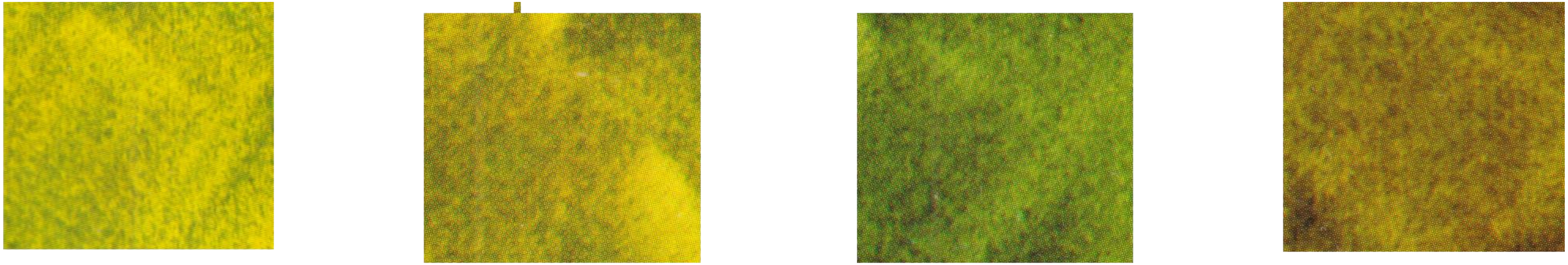
Transparent Yellow、イミダゾンレモン、
イミダゾンイエロー、インディアンイエロー、
イソインドリノンイエロー、
キナクリドンゴールド　など

Viridian Hue　　　　イミダゾンイエロー

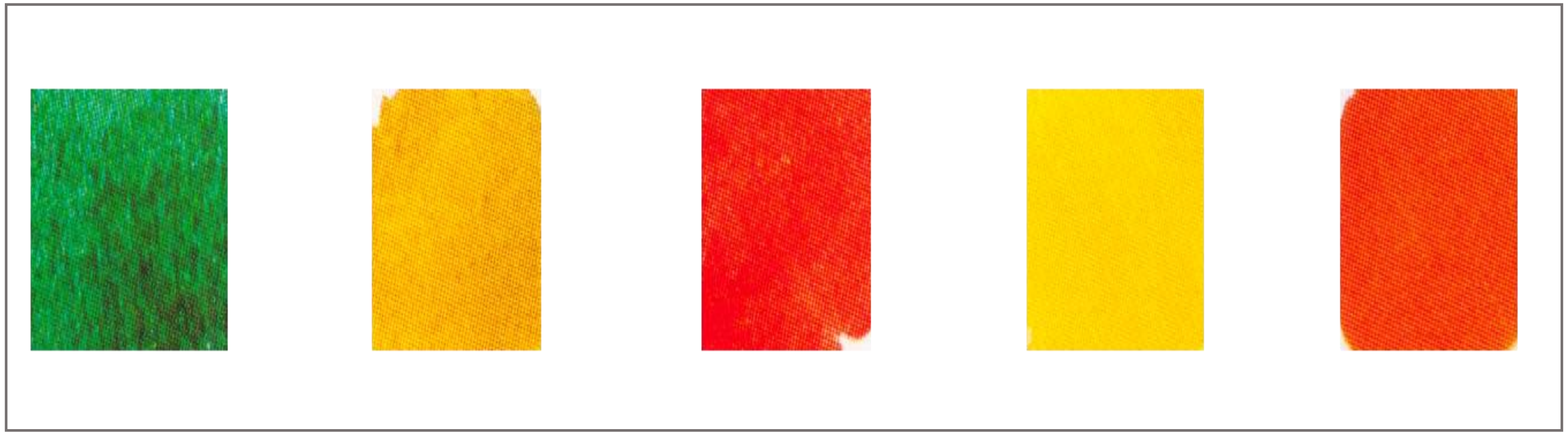
# ② Viridianで透明なGreenを作る



透明度の高い黄色と少量のピンクの混色で、暖色のオレンジGreenから寒色のブルーGreenを。
暗い色の植物や紅葉に便利。

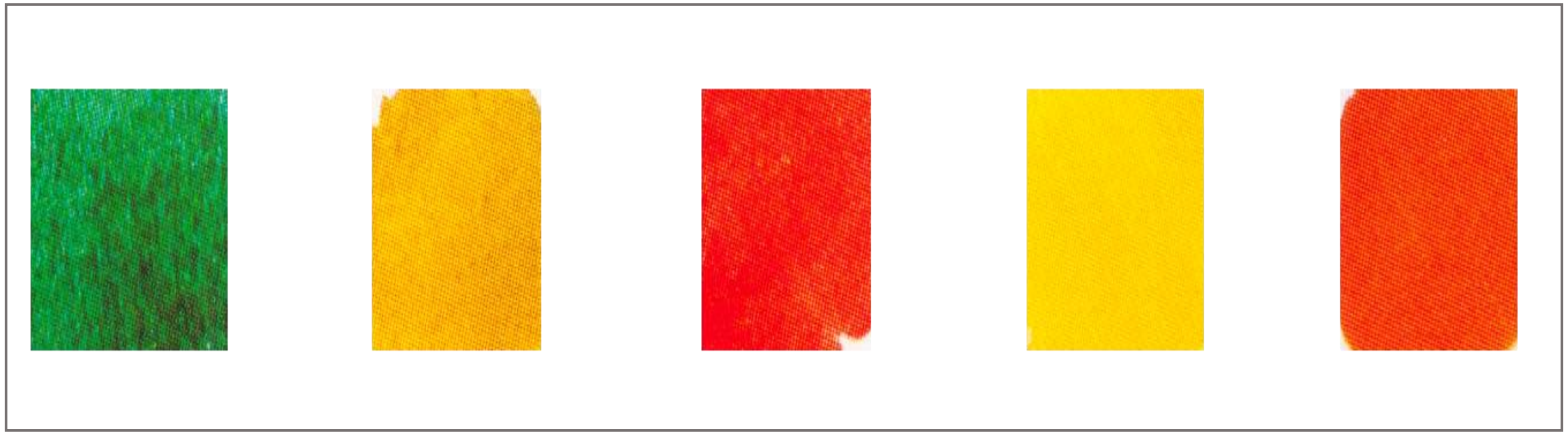


# ③ Viridianで不透明なGreenを作る



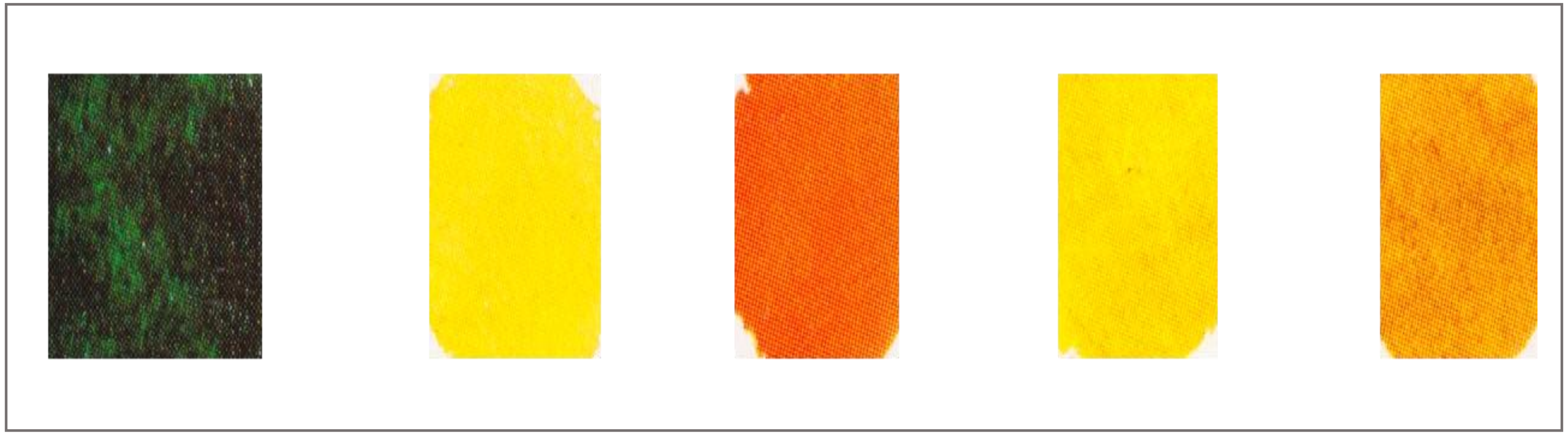
Cd.イエロー、Cd.オレンジ、Cd.レッドなど暖色の不透明色との混色で、重量感がある緑ができる。

# ③ Viridianで不透明なGreenを作る



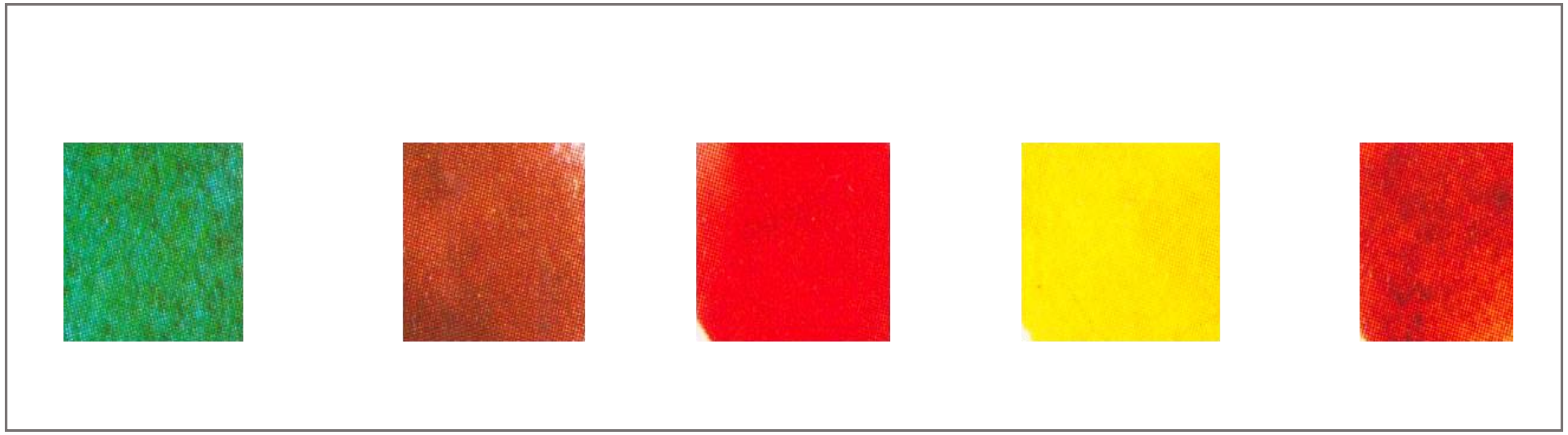
Cd.イエロー、Cd.オレンジ、Cd.レッドなど暖色の不透明色との混色で、重量感がある緑ができる。

# ④ 少量のViridianで明るいGreenを作る

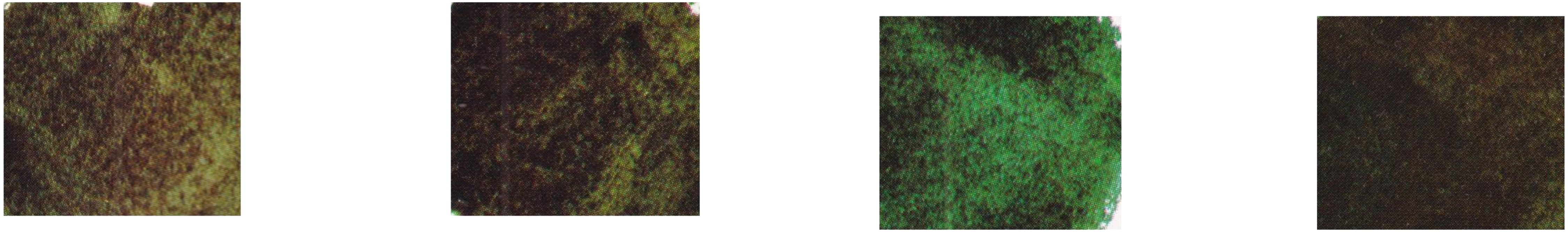


透明度の高い黄色、Cd.イエロー、Cd.オレンジとの混色で。春の新緑に使える。

# ⑤ Viridianで暗いGreenを作る



オレンジや赤との混色で暗い濃い緑を。
混色比率を変えて、寒色、暖色も。
暗い葉陰に使える。

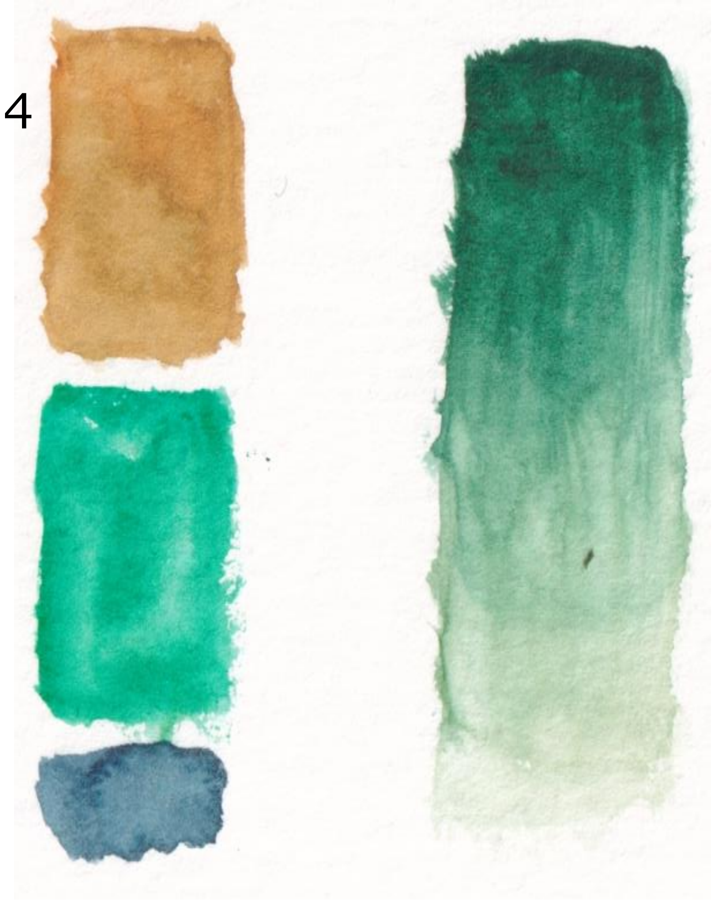


# ⑤ Viridianでツバキの葉のGreenを作る

イエローオーカー　4

Viridian Hue　4

Prussian Blue　1

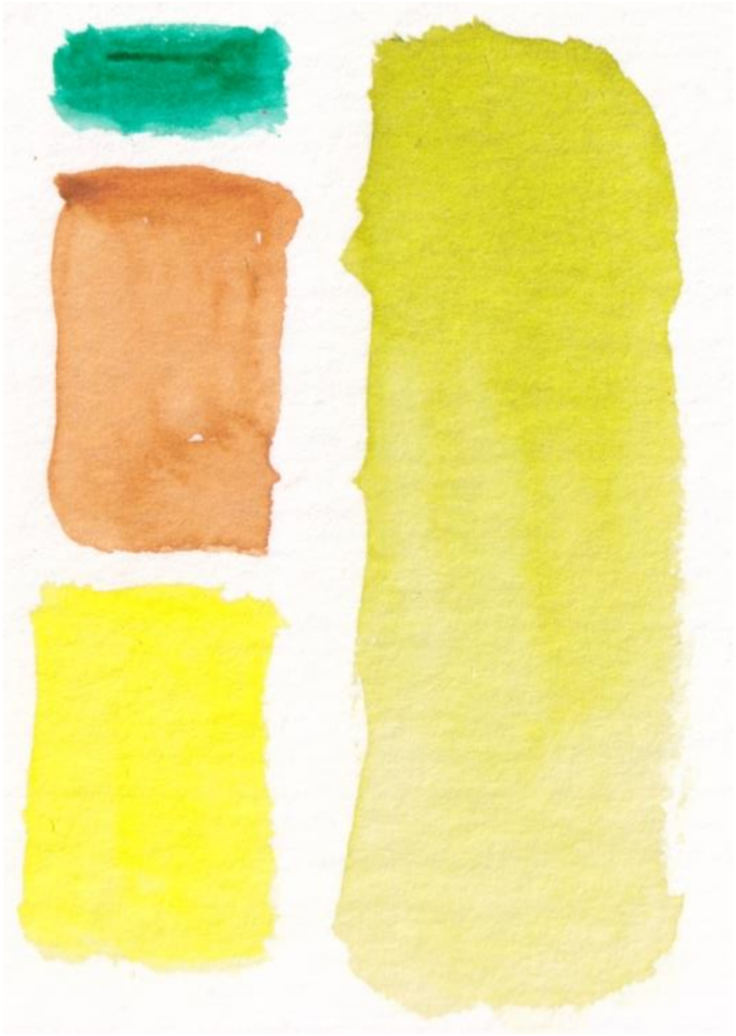


# ⑥ Viridianで新緑のGreenを作る

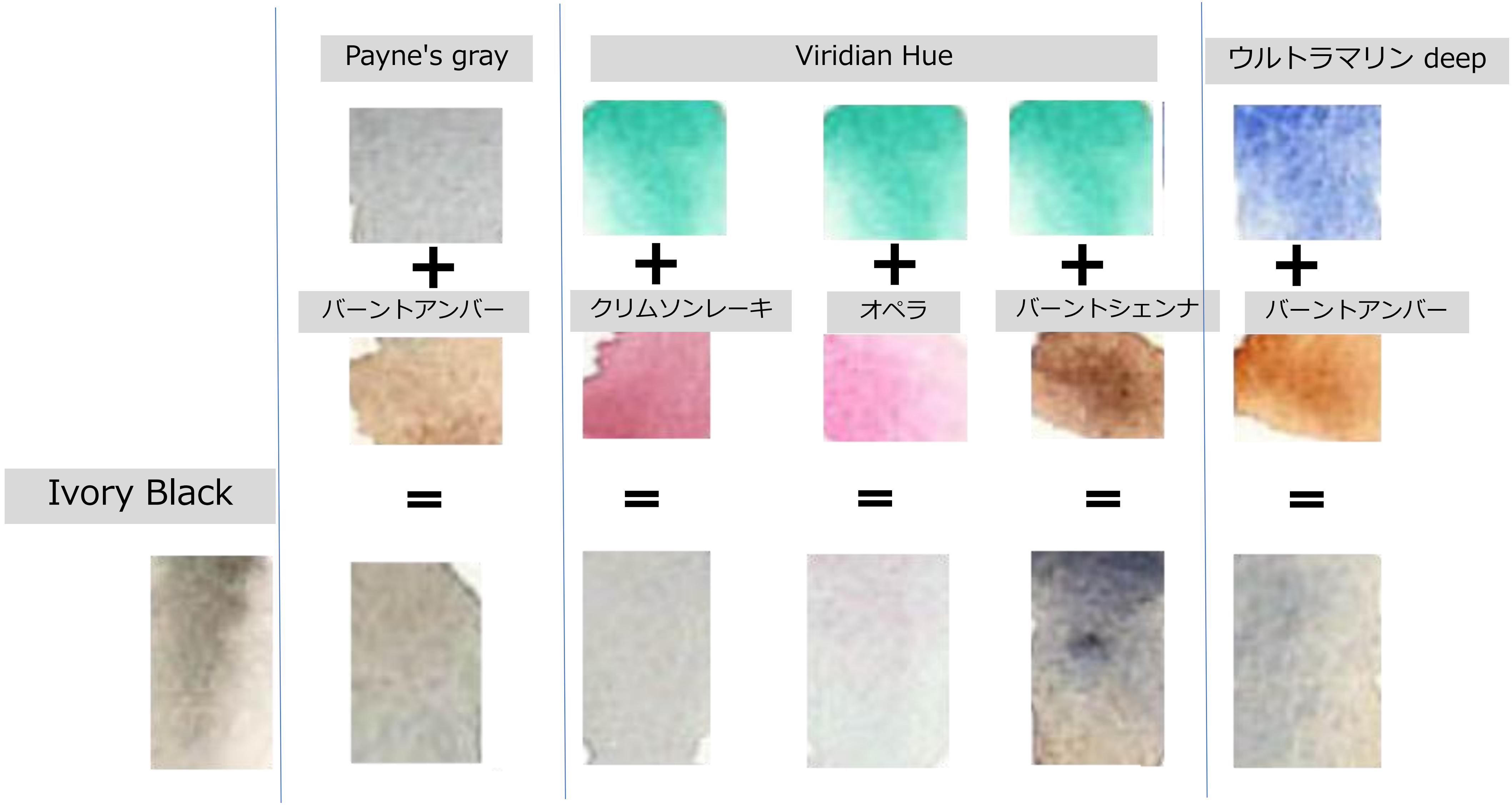
Viridian Hue　1

イエローオーカー　4

Yellow Lemon 4



# ⑦ Botanical Gray を作る



# フーカスグリーン Hooker ‘s green：W062

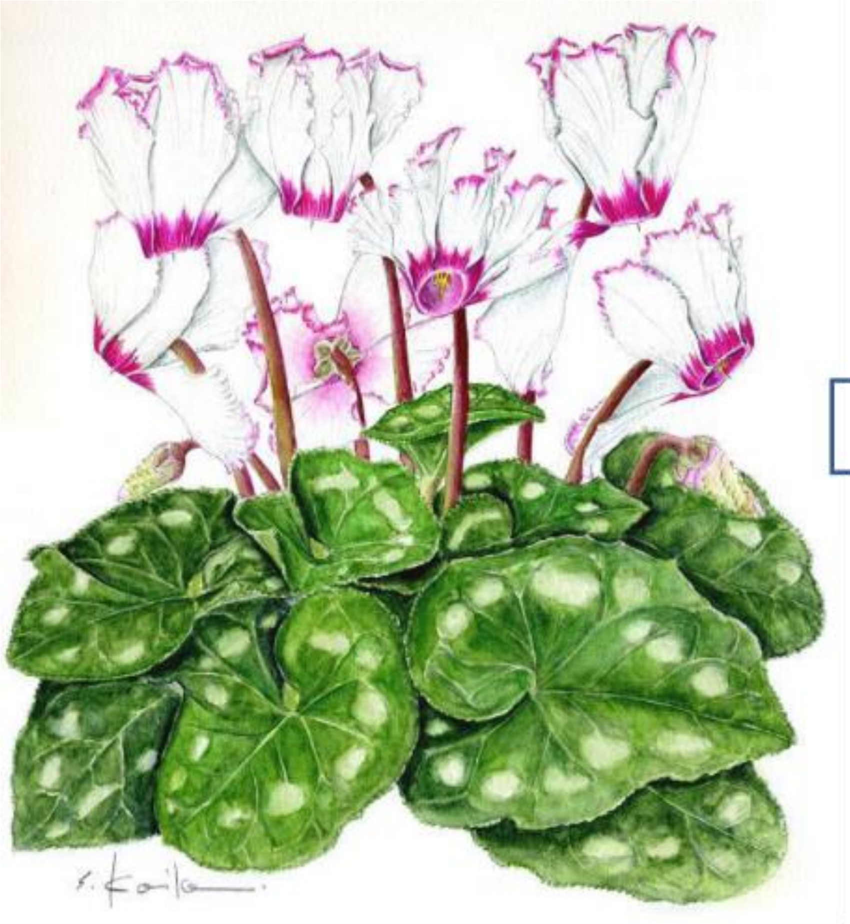
植物画を描くために開発された色。
中世は教養としてボタニカルアートが盛んで、その技術は植物の記録や、本への記載のために利用された。
かつてはプルシアンブルーとガンボージの混色が利用されたが、ガンボージの毒性、耐久性のある顔料の開発進み、今日では絵の具メーカーなどはそれぞれ各社の調合レシピに則った製品が売られている。

William Hooker、1779年 – 1832年）はイギリスの博物画家。
植物画家のフランツ・バウアー(Franz Bauer）のもとで博物画を学び、王立園芸協会の専属画家となり、協会の出版物の図版を描いた。特に果実の絵で知られる。

# フーカスグリーン Hooker ‘s green：W062

鮮やかな明るい緑。黄緑とも違う感じ。渋みあり。

# 重色により彩度アップ、奥行き感増大。



# フーカスグリーン、Viridianの陰色用途

赤いモチーフの陰影：最後の重色、又は最初に陰を付与。